

令和五年度 文学部 日本・中国文学科 学校推薦型選抜 小論文②

〔注意〕

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 この冊子は、問題用紙（四頁）および解答用紙（二枚）からなっている。
- 4 この冊子のうち、落丁・乱丁、印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 5 解答は必ず別紙の解答用紙の指定された箇所に縦書きで記入すること。
- 6 解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入すること。受験番号・氏名が記載されていない答案は無効となる場合がある。
- 7 句読点やカッコ、数字はそれぞれ一字として数える。
- 8 満点は二〇〇点である。ただし、二五〇点に換算する。
- 9 試験時間中の退室は認めない。
- 10 問題冊子と下書き用紙は、持ち帰ること。

一

次の文章は、筆者が、戦国大名であったころの徳川家康の逸話を紹介している箇所である。これを読んで、この逸話における家康の対応や考えを整理した上で、それに対する自分の意見を記せ。解答は解答用紙の範囲(七〇〇字)内に記すこと。(100点)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(室鳩巢『駿台雑話』による)

- (注) ○本多佐渡守……家康の側近、本多正信。 ○外様の者……親族や代々の家臣ではない家来。 ○御前に……家康の前に。
○鼻紙袋……鼻紙や小物を入れた小袋。 ○筆記の物……書き付け。 ○自身に……みずから。 ○奇特……殊勝であるさま。
○御感……貴人が感心したり満足したりすること。 ○あいさつ……応答のことば。 ○卒爾……失礼なさま。 ○いやと
よ……いやそうではない。 ○小身……身分の低いこと。 ○傍輩……同僚や仲間。 ○大身……身分の高いこと。 ○所
従……従者。 ○上野介……本多正信の子、正純^{まさすみ}。 ○仁厚……慈しみの心が深いこと。

二

次の文章を読んで、本文の内容を要約した上で、この一文に託して筆者が主張したかったことを述べ、それに対する自分の意見を記せ。解答は解答用紙の範囲（七〇〇字）内に記すこと。（100点）

（著作権の関係で不掲載）

（陸游「万卷楼記」による）

(注) ○約……要約されている。簡約である。 ○稽……くらべる。比較検討する。 ○本末……はじめと終わり。 ○精粗……
詳しいことと大雑把なこと。 ○發明……分らないことを明らかにする。 ○関渉……かかわりあう。 ○脱遺失次……
あるはずのものが抜け落ちていたり、順序が乱れていたりすること。 ○詰……言葉の意味。 ○隸・古……漢代の隸書と
秦代の篆書のような古代の書体。 ○楚・夏……古代楚の国と夏の国の発音。 ○鹵莽焉……粗雑であること。 ○自便
……自分勝手に、思うようにする。 ○因循……しきたり通りに、ずるずるべったりの態度をとる。 ○博之溺心……『莊
子』に見られる言葉。広い知識は素朴な心を埋没させてしまう。 ○陋……見識が狭いこと。 ○憾……物足りなく思う。
心残りに思う。 ○闕草……古代五月五日に行われた遊戯。さまざまの草を取り合わせてその多さを競う。 ○秦之焚書
……秦の始皇帝の時代に書物を焼き、学問や思想を弾圧したこと。